

本校生徒が新聞に掲載されました

本校野球部が7月13日付けの中日新聞に掲載されました。

松平が終盤に加点



松平・稲沢 1回表松平1死、犠飛で三塁から生還し、後続選手とハイタッチを交わす伊藤竜(左)＝豊田市運動公園で

松平1010000331
稲沢0100000101
29

豊田市運動公園

(松) 常本・伊藤陵
(稲) 田中・溝口昌
①：松平が終盤に得点を重ねて稲沢を突き放し、試合を制した。
松平は同点で迎えた三回2死二塁、大城の左前適時打で勝ち越しに成功。七回以降は7安打と打線がつかぬが、追加点を呼び込んだ。
稲沢は八回に後藤の中犠飛で1点を返したが、その後は打線がつかぬままだった。

先頭打者会心の一打

開幕日の第一試合。独特の緊張感に包まれた球場で、一回表の左打席に立つ



た松平の先頭打者、伊藤竜選手(二年)は冷静に球を見極めていた。

真ん中に来た3球目の直球を見逃さず、思い切りの打球は右翼手の頭上を越え、いきなりの三塁打

松平の伊藤竜選手

に。スライディングで三塁に到達した瞬間、張り詰めた球場の空気が一変し、大歓声が湧いた。「緊張はなれないが、冬場にはいつも重い。塁に出ることだけを考えた」。後続の犠飛で先制のホームを踏み、会心の笑顔を見せた。

これでチームは勢いに乗った。菅谷雅行監督は「何事にも物おじしない性格。他の選手たちの緊張を吹き飛ばしてくれた」とたたえを尽くす。

その成果は最高の形で表れたが、浮かれるそぶりは一切見せない。「三年生の先輩たちが主役の大会。勝ちに貢献できるように全力を尽くす」

チームの信頼を得たのは昨年の秋。守備固めで試合に途中出場し、数少ない打席で確実に安打を重ねて主力に定着した。一六三マ、五三マと体格には恵まれないが、冬場にはいつも重い一・三マのバットを握り、振り抜く力を付けた。

(河北彬光)

